

WAWO構法の構造特徴

知らないと損する！ 早いほど得する！

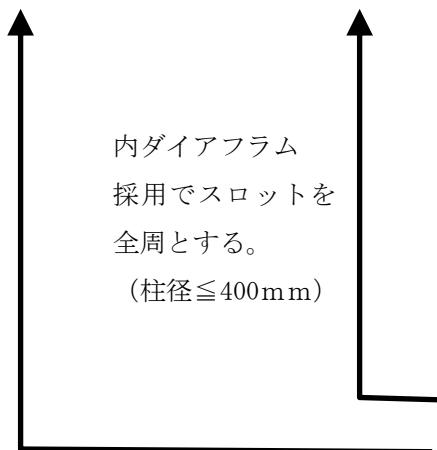
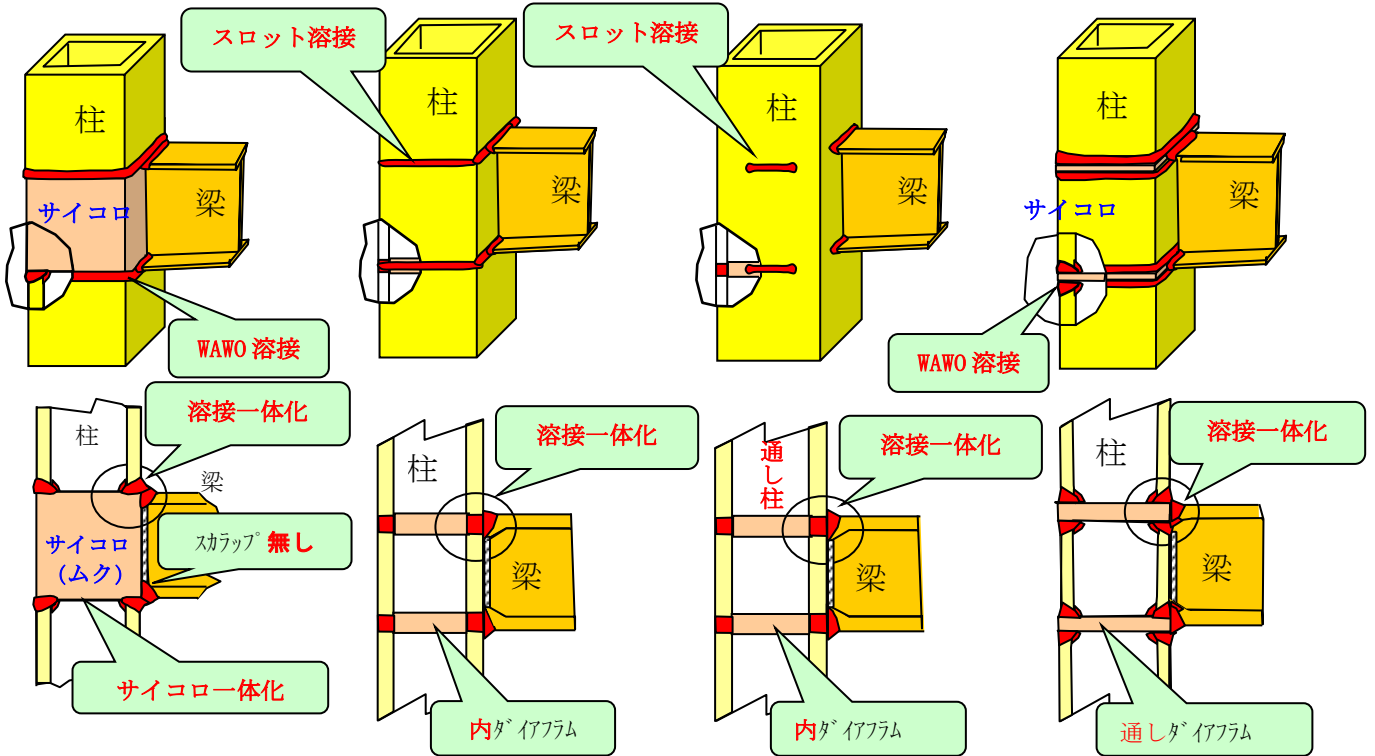
(株) アークリエイト

一体化工法

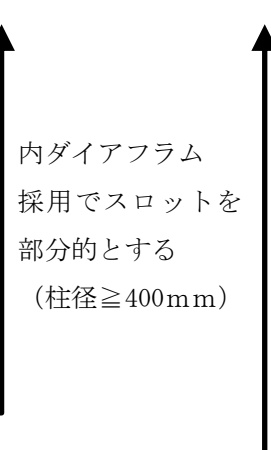
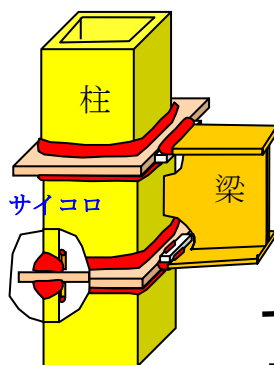
スロット工法 (全周)

スロット工法 (部分)

つばなし工法

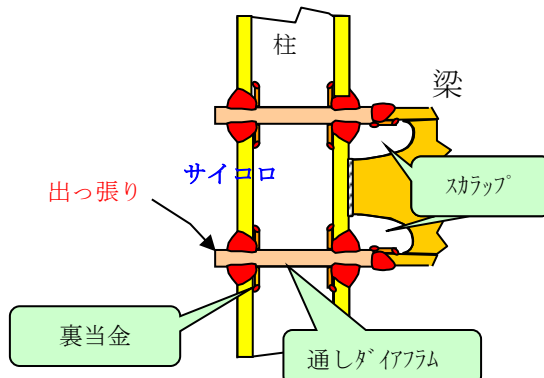


従来工法



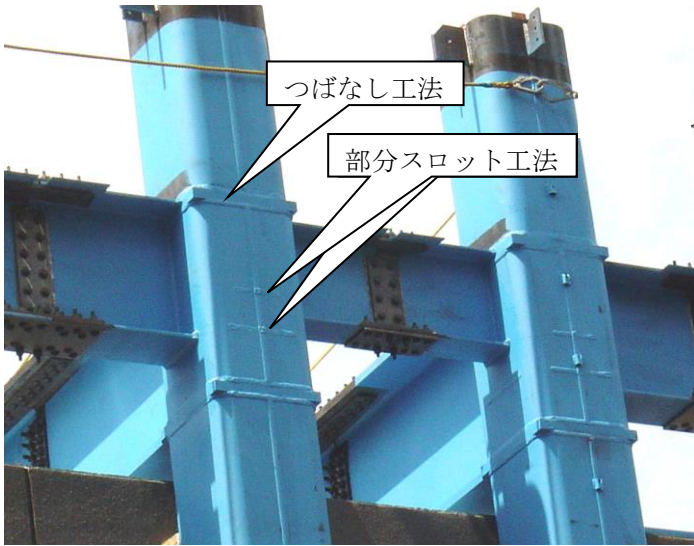
サイコロを
1部材で置き換え

通しダイアフラムで
柱からの出をなくす

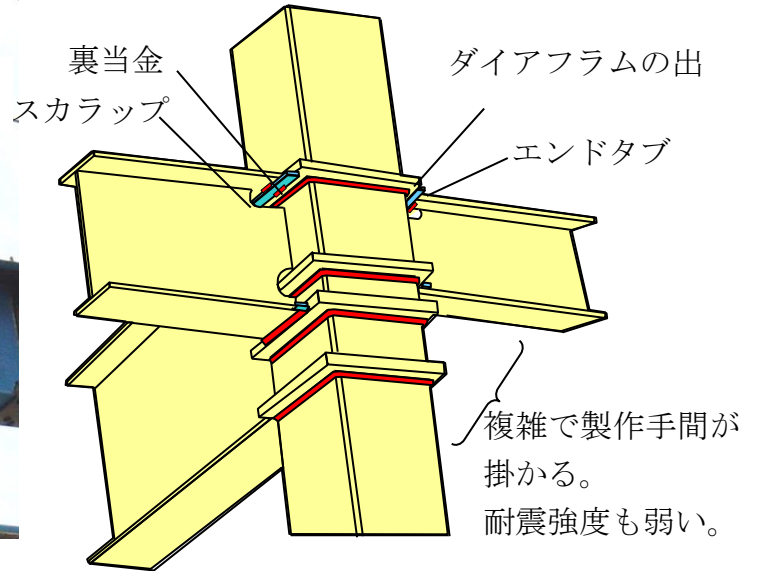


つばなし工法＋部分スロット工法の適用写真例

新工法では、梁せいの異なる仕口部をつばなし工法や部分スロット工法（ダンベル形状）で施工することにより四大障害（裏当金・エンドタブ・スカラップ・ダイヤフラムの出）がなく、溶接量も30%以上縮減出来る。柱梁接合部の耐震強度も2.5倍になる。

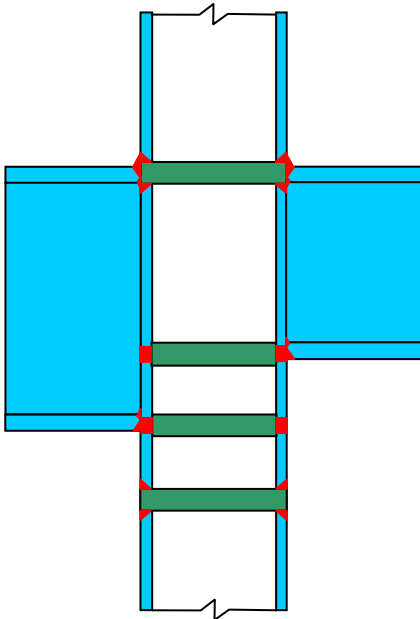


WAWO構法

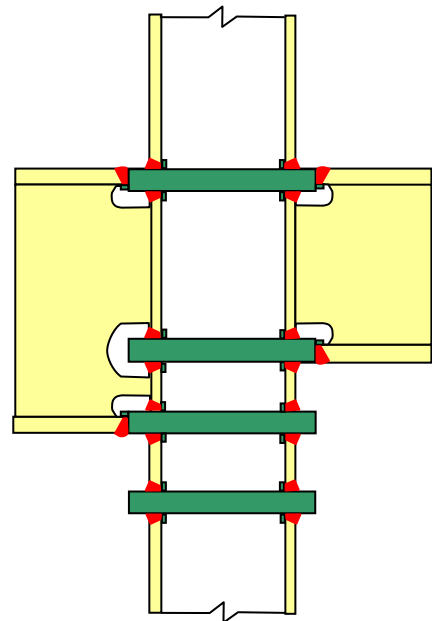


従来工法

従来工法で同じものを施工すると、梁せいの異なる仕口部はダイヤフラム位置での柱切断が多く、四大障害（裏当金・エンドタブ・スカラップ・ダイヤフラムの出）もあり、溶接量も多く煩雑である。



WAWO構法断面図



従来工法断面図

つばなし工法の適用写真例

せいの異なる3方向の梁が集まる仕口部は、四大障害（裏当金・エンドタブ・スカラップ・ダイアフラムの出）がなくて、複雑な継手が簡単になっている。耐震強度も2.5倍に向上。

WAWO構法



従来工法で施工した場合、せいの異なる3方向の梁が集まる仕口部は、ハンチの他に、四大障害（裏当金・エンドタブ・スカラップ・ダイアフラムの出）があり、複雑である。

